

【別紙】実施結果

○1事業者（グループ）当たり、1時間程度の意見交換を行い、主に以下のご意見をいただきました。同様のご意見はまとめて掲載しております。

(1) 休館日、開館時間について

■キャンプスペース

- ・月曜日は振替休日に該当する日も多く、日～月の利用ニーズは大きいため、休館日は火曜日が適切。
- ・山間地ほど寒くはないので、冬季を休業する必要性は低い。ペット連れ利用可の場合、冬季でのペット連れの利用ニーズも一定見込めるため、デイキャンプはオープンしてもよい。
- ・チェックインは利用者のテントなどの準備時間を考えると、15時以後は遅い。
- ・早い時間から利用する場合は、日帰利用時間と宿泊利用時間を組み合わせる等も考えられる。
- ・ファミリー向けの観点からは冬期の需要はあまりないと考えられる。一定のソロキャンプ利用も見込まれるなど、宿泊営業の要否は需要次第であるが、現時点では実施しない前提としても良い。
- ・3月はキャンプ需要が大きく、2月までの休業が望ましい。
- ・時間設定は、運営の中で柔軟に変えられるような仕組みにすべき。
- ・冬の運営は、ニーズの検証のために初年度は実施すべき。3日前に予約が無ければ運営しないなど、柔軟な運営ができるのであればそれが望ましい。
- ・日帰り利用の時間帯について、バーベキュー利用を想定するなら、21時とした方がよい。ただ、郊外型バーベキュー場の事例だと、夜間ニーズはあまりないのが実情。

■市民農園

- ・年末年始は利用ニーズがあると考えられる。

(2) 市民農園契約期間について

- ・今の時点でも稼働率が100%に至っていないということを考えると、より長く使ってもらえるようにすべき。契約期間を延長できるとよい。区画を希望する人のチャンスは減るので、その配慮は必要である。
- ・3年間の利用は適切である。
- ・契約期間の長期間化は利用者にメリットがあると考え。一方で利用者の固定化が懸念される。また期間を3年とすると連作障害の発生も懸念される。
- ・利用料金制で一括納付とした場合に、指定管理期間を跨ぐ可能性がある。この点も考慮すると、利用料金支払いは1年ごと、という設定がよい。
- ・初心者には3年の契約期間は長く、挫折してしまう方もいる。
- ・契約期間は2年をベースに、希望に応じて利用更新できる仕組みが望ましい。
- ・短期利用のニーズもある。

(3) 使用料、キャンプスペース定員

■市民農園

- ・使用料水準は 400 円/年㎡程度が適切だと考える。
- ・値上げによって、既存の利用者が利用を止めることはないと思われる。

■大屋根広場

- ・大屋根広場の「100 円/人・時間」は廉価であると考ええる。
- ・コンロ、椅子等の備品込の金額で、3 時間で 1,500 円＝1 時間で 500 円程度でも良いと考える。

■キャンプスペース

- ・宿泊料金は、消費税改正時の価格改定で揉めた他都市事例もあり、条例上は出来る限り高く設定してもらう方が後々調整しやすい。
- ・平日と休日で料金設定を分けることが考えられる。
- ・教育利用等を想定し、学生の使用料減免を行うことが考えられる。
- ・1 区画あたりの定員は設定する方がよいが、全面貸切利用の場合は、定員によらず利用できるようにすることも考えられる(周囲の迷惑にならないため)。
- ・各区画の定員は自動車の台数制限も考慮して考える必要がある。
- ・フリーサイトにも、一定の定員やテントのサイズなどについてのルールを作る必要がある。
- ・他施設では、最大2割程度、直近の2年で上昇したケースがあり、適正な人件費、物価を考慮した条例上の上限としては、少し高めに設定しておけばよいと考える。
- ・使用料のほか 1 人当たりの入場料を設定するとよい。バーベキュー場と異なり自分たちだけが使う場所となるので、入場料の水準は高めでもよい。
- ・繁閑に応じた弾力的な価格設定(ダイナミックプライシング)を実施可能な水準として条例上の上限額を設定するとよい。

(4) 市民農園区画面積

- ・利用者の意見を踏まえて調整できるよう、条例上は幅のある設定にしておけるとよい。
- ・小規模な区画を1人何区画まで借りられる、という方法が柔軟性があるのではないか。
- ・未稼働のスペースを使って、より小規模な区画を整備することも考えられる。
- ・新規就農支援を行う拠点とするために 200 ㎡等の広い面積を確保して耕作をするなどのプログラム提供を目指すなどの方向性を志向するのであれば、区画の自由度を高めることは有効な手法といえる。そのような意向が特に無いのであれば、区画面積の変更には特段のメリットはない。
- ・道路沿いの区画を小さくしてより多くの人に使えるようにしてもらおうとよい。
- ・5～6 ㎡程度の小規模区画を設定することで、30-40 代の現役世代に対して訴求することが期待できる。

(5)緑地広場について

- ・繁忙期としてゴールデンウィークなどが想定されるが、その場合は、緑地広場はイベントスペースとして活用したい。
- ・キャンプスペースが予約がとれないほどニーズがある時期には、緑地広場をキャンプスペースの拡張地として活用することも考えられる。
- ・緑地広場からキャンプスペースにかけての動線上の照明を明るくする対応は必要になる。